

横浜市立藤の木中学校 学校評価報告書(令和元年度～令和3年度) ※学校関係者の意見を踏まえた自己評価【A:十分達成 B:概ね達成 努力必要 D:改善必要】

重点取組分野	令和元年度		総括	重点取組分野	令和2年度		総括	重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知識・技能	ICTの活用や、アクティブラーニングの取組を充実させ、意欲的・主体的に取り組む授業の実践を図ります。 ・小学校との連携を基盤に、よりわかりやすい授業の実践に向けたカリキュラムの充実に努めます。	ICTの活用やアクティブラーニングの取組については、各教科等の授業においておおむね達成している。 ・今後、小学校の新教育課程前面実施に伴い、小中の一層連携したカリキュラムの充実に努められる。	B	生きてはたらく知識・技能	ICTの活用や、アクティブラーニングの取組を充実させ、意欲的・主体的に取り組む授業の一層の充実を図ります。 ・小学校との連携を基盤に、小中の滑らかな学びの連続性を意識したカリキュラムの充実に努めます。	コロナ禍において、グループワークや近距離での意見交換等に制限がかかったが、限られた条件の中で、学びを充実できた。 ・オンライン授業の実施等に向けて校内研修を開き、ICTのさらなる活用に理解を深めた。	B	生きてはたらく知識・技能	ICTの活用や、アクティブラーニングの取組を充実させ、意欲的・主体的に取り組む授業の一層の充実を図ります。 ・小学校との連携を基盤に、小中の滑らかな学びの連続性を意識したカリキュラムの充実に努めます。		
豊かな心	人権尊重の精神を共通理解し、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりの実現に努めます。 ・さまざまな場面で生徒の努力や変容を認め、自尊感情の高まりや次の活動の意欲につなげます。	人権尊重の精神を基盤とした誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりについて、おおむね達成している。 ・全国学力・学習状況調査結果において、生徒の自尊感情の高まりが明確に読み取れる。	B	豊かな心	人権尊重の精神を共通理解し、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりの実現に努めます。 ・さまざまな場面で生徒の努力や変容を認め、自尊感情の高まりや次の活動の意欲につなげます。	今年度は特に、新型コロナウイルス感染症に対する偏見・差別をなくす声掛けを行うことを心がけ、学校だよりでも取り上げた。 ・コロナ禍において実施した、修学旅行、体育祭においては生徒の努力や変容を認めることができた。	B	豊かな心	人権尊重の精神を共通理解し、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりの実現に努めます。 ・さまざまな場面で生徒の努力や変容を認め、自尊感情の高まりや次の活動の意欲につなげます。		
健やかな体	保健体育や理科、家庭科の授業、学校保健委員会等の学びの充実を図り、「健やかな体」の実現につなげます。 ・健康診断の結果や体力テストの結果を生徒に振り返らせることで自分の課題を明確にし、解決していける力を育てます。	保健体育、理科、家庭科の各授業や学校保健委員会等の取組は、本校生徒の「健やかな体」の実現につながっている。 ・健康診断や体力テストの結果を生徒に振り返らせ自分の課題を明らかにさせることができています。	B	健やかな体	保健体育や理科、家庭科の授業、学校保健委員会等の相互の学びの充実を図り、「健やかな体」の実現につなげます。 ・健康診断の結果や体力テストの結果を踏まえ、課題を解決していく力を生徒に身に付けさせます。	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学校保健委員会の開催を見合わせた。保健体育、理科、家庭科等、各授業での学びが「健やかな体」の実現につながっており、校内をあげての感染予防の取組にも成果があった。	A	健やかな体	健康診断の結果や体力テストの結果を踏まえ、課題を解決していく力を身に付けさせます。 ・学校給食の導入に伴い、食育の視点から教育活動を充実させます。		
特別支援教育	生徒一人ひとりの様子を把握し、教職員で情報共有を図り、一貫した効果的な指導を実践します。 ・特別支援学校のセンター的機能を活用した校内研修会を開き、本校生徒一人ひとりに対する適切な支援につなげます。	特別支援教育実践推進校として、生徒一人ひとりの様子を教職員間で共通理解し、新しい体制の下で一貫した効果的な指導を展開している。 ・特別支援学校のセンター的機能を活用し、生徒一人一人に対する適切な支援につなげることができている。	A	特別支援教育	特別支援教室実践推進校として、国際教室とも連携を図り、生徒一人ひとりの様子を把握し、教職員で情報共有を図り、一貫した効果的な指導を実践します。 ・特別支援学校のセンター的機能を活用した校内研修会を開き、充実した支援につなげます。	特別支援教室実践推進校として、国際教室と連携を図る先進的な取組を開始した。 ・コロナ禍において、センター的機能を活用した校内研修会を差し控えたが、「特別支援教育ニュースレター」の発行等の取組を充実させることができた。	A	特別支援教育	特別支援教室や国際教室と連携を図り、生徒一人ひとりの様子を把握し、一貫した効果的な指導を実践します。 ・特別支援学校のセンター的機能等を活用した校内研修会を開き充実した支援につなげます。		
地域連携学校運営協議会	学校運営協議会を基に、保護者・地域、小学校との協働を進めます。 ・学校だより等を通じた情報発信を積極的に行います。 ・地域行事への生徒の積極的な参加を促し、地域との連携を深めます。	学校運営協議会を基に、保護者・地域、小学校との協働が着実に進んでいる。令和2年度より小中合同の学校運営協議会の開催が確定している。 ・学校だよりやメール配信等を通して、必要な情報発信をタイミングよく行っている。	B	地域連携学校運営協議会	学校運営協議会を基に、保護者・地域、小学校との協働を進めます。 ・学校だよりやメール配信を通して家庭・地域への情報発信を積極的に行います。 ・学校だよりの発行、メール配信・学校ホームページの更新を積極的に行い、コロナ禍における情報発信に努めた。	小中合同の学校運営協議会を立ち上げ、書面会議ではあったが、学校運営協議会の充実に向けて一歩前進することができた。 ・学校だよりの発行、メール配信・学校ホームページの更新を積極的に行い、コロナ禍における情報発信に努めた。	B	地域連携学校運営協議会	小中合同の学校運営協議会を基盤として、保護者・地域、小学校との協働を進めます。 ・学校だよりやメール配信を通して家庭・地域への情報発信を積極的に行います。		
いじめへの対応	「居場所づくり」「絆づくり」を通して、生徒の自己有用感を高め、いじめの防止につなげます。 ・年度初めから実施する「いじめ防止の取組」を「学校・家庭・地域交流会」や「よこはま子ども会議」に関連付け、いじめの効果的な防止をめざします。	いじめへの対応や防止について、全職員で対応し、着実な成果を挙げている。 ・年度初めからの「いじめ防止の取組」を「学校・家庭・地域交流会」や「よこはま子ども会議」の取組にも関連付けたことが、いじめの効果的な防止につながっている。	B	いじめへの対応	「居場所づくり」「絆づくり」を通して、生徒の自己有用感を高め、いじめの防止につなげます。 ・「いじめ防止の取組」を「学校・家庭・地域交流会」や「よこはま子ども会議」に関連付け、一層効果的ないじめの防止をめざします。	いじめへの対応については、生徒指導専任を中心に全職員で対応し、重大事案に至る前のトラブル等にもいねいに対応している。 ・コロナ禍において「学校・家庭・地域交流会」の開催は中止となった。よこはま子ども会議は、スリム化して実施した。	B	いじめへの対応	「居場所づくり」「絆づくり」を通して、生徒の自己有用感を高め、いじめの防止につなげます。 ・「いじめ防止の取組」を「よこはま子ども会議」に関連付け、一層効果的ないじめの効果的な防止策を充実させます。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	校内授業研、小中合同授業研を通して、カリキュラムの充実・授業力の向上を図ります。 ・メンターチームによる研修を深め、経験の浅い教職員の効果的な力量形成に努めます。 ・職員の健康維持がより充実した教育活動につながるよう、定時退勤日の確保に努めます。	校内授業研究会や小中合同授業研究会の取組がカリキュラムの充実につながっている。 ・メンターチームによる研修が、ほぼ10年目までの教職員の効果的な力量形成につながっている。 ・働き方改革については、さらに採点ソフトの導入などを試みている。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	校内授業研、小中合同授業研を通して、カリキュラムの充実・授業力の向上を図ります。 ・メンターチームによる研修を深め、経験の浅い教職員の効果的な力量形成に努めます。 ・職員の健康維持がより充実した教育活動につながるよう、定時退勤日の確保に努めます。	今年度はコロナ禍において、校内授業研、小中合同授業研究会は実施を見合わせた。 ・メンターチームによる研修は、経験の浅い教員力量形成に有効であった。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	小中合同授業研を通して、カリキュラムの充実・授業力の向上を図ります。 ・メンターチームによる研修を深め、経験の浅い教職員の効果的な力量形成に努めます。 ・職員の健康維持がより充実した教育活動につながるよう、行事の精選・統合、定時退勤日の確保に努めます。		
ブロック内評価後の気付き	小学校と中学校では「カリキュラム」に対するイメージが異なり、小中一貫カリキュラムの具体をどのように編成していくかが一つの焦点となった。令和2年の小学校の新教育課程実施を踏まえ、中学校ブロックで共通理解した9年間で育む資質・能力を意識しつつ、小中一貫カリキュラムの完成を目指したい。			ブロック内評価後の気付き	中学校ブロックではコロナ禍にあっても、管理職、教務主任、生徒指導専任等が必要な情報共有に努め、校種を超えた理解に努めた。小中一貫カリキュラムについては、小学校で今年度実施されたカリキュラムを踏まえ、次年度の中学校における新学習指導要領の完全実施につなげていく。 ・今年度は特に、特別支援教育の視点での子どものかかわり方について、小学校からの情報が役立った。		ブロック内評価後の気付き				
学校関係者評価	学校運営協議会委員を中心とする学校関係者からは、本校の日頃からの努力や変容について一定の評価を得るとともに、学校の日々の努力や変容も認めていただいている。 ・教職員の日々の努力については、多くの保護者・地域の方々にご理解いただくことが難しい場面もあるが、学校の状況を少しでもご理解いただけるように、学校だよりや学校ホームページの工夫を重ねたい。			学校関係者評価	学校運営協議会は今年度から小中合同開催となったが、コロナ禍の影響で書面開催とし、各委員より学校評価につながる意見を募った。今年度は、コロナ禍における感染拡大防止対策をはじめ、さまざまな制限のある中での教育活動、特に、体育祭や修学旅行を安全に実施したこと等に高い評価をいただいた。 ・学校運営協議会より、学校の様子や小中連携の大切さや各学校の取組について書面開催を通じて理解できたというご意見をいただいた。		学校関係者評価				
中期取組目標振り返り	それぞれの取組目標について、教職員がチームワークよく取り組み、一定の成果を挙げることができている。 ・3年計画であるので、あと2年かけて中期学校経営方針の目指すところが達成できるように、職員間のチームワークとコミュニケーションを一層大事にしていきたい。			中期取組目標振り返り	教職員と生徒との信頼関係を築くという点では、特別支援教育の充実により、前進できた部分があるが、生徒とのかかわり方については、毎年度教職員全員が共通理解ペクトルを合わせ進んでいく必要がある。 ・コロナ禍において感染拡大防止の観点から、小中合同授業研究会等の開催ができなかったが、次年度以降、また機会を捉え充実させたい。		中期取組目標振り返り				